



発行所 電波新聞社

版輪
アジア五輪
半導体

福岡で「A-SSCC」開く

過去最多 17カ国から446人参加

【福岡】IEEE(米国電気電子学会)のSSCC(固体回路学会)は3日、福岡市のホテルで「第4回IEEE A-SSCC2008(アジア固体回路学会)」(組織委員長「下東勝博・半導体理工学研究会」)を開催した。3日は期3日で開幕した。3日は4テーマの講義が2回ずつ行われたが、4日は開会式が行われ、下東委員長らがあいさつした。きょう5日までに開催される。



下東勝博委員長があいさつした。きょう5日までに開催される。A-SSCCは、半導体

のオリピックともいわれるISSCC(国際固体回路素子回路学会)のアジア版。「アジアの半導体産業の急速な発展」「アジア地域での重要性の急増」「アジアに集積回路設計の新しい風を」との観点から05年2月にIEEE・SSCC主催4番目の国際学会として発足した。

これまで台湾、中国、韓国で開催されてきたが、今回、日本で初の開催。アジア各国からのアクセスの良さから、福岡での開催となった。ことしのテーマは「デジタル・コンバージェンス・フォー・ユビキタス・ライフスタイル」。事前申し込みでは、3日間で過去最大の17カ国・地域から446人が参加予定。



446人を集め福岡で開幕した「A-SSCC2008」

半導体S.O.C産業分野でのファウンダリーとファブレス企業の連携(韓国・東部ハイテック社)が続いた。5日は、米テキサス・インスツルメンツ無線事業部技術責任者の

が推進している「シリコンシーベルトサミット福岡」構想を紹介した。初日の招待講演は「環境指向CEプラットフォームが目指すもの」(パナソニックの榎本好明シニアフェロー)と、「韓国における来年は再び台湾で、11月の開催を予定している。